

2020年7月30日

各 位

上 場 会 社 名 日本フェンオール株式会社
代 表 者 代表取締役社長 田原 仁志
(コード番号 6870)
問合せ先責任者 取締役管理統括部長 田原 康治
(T E L 03-3237-3561)

2020年12月期第2四半期累計期間の業績予想値と 実績値との差異に関するお知らせ

2020年2月10日に公表いたしました2020年12月期第2四半期累計期間（2020年1月1日～6月30日）の業績予想値と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想値と実績値との差異について

2020年12月期第2四半期累計期間の連結業績予想値と実績値との差異（2020年1月1日～2020年6月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 4,179	百万円 130	百万円 158	百万円 109	円 銭 19.30
実績値 (B)	4,789	583	642	414	73.39
増減額 (B-A)	610	453	484	305	
増減率 (%)	14.6	348.5	306.3	279.8	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年12月期第2四半期)	5,073	278	331	298	50.61

2. 業績予想値と実績値との差異の理由

2020年12月期第2四半期累計期間の売上高につきましては、メディカル部門において、客先の生産調整の影響による出荷減少等があったものの、SSP部門においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う工事の遅延等が発生することを考慮し、第3四半期以降に完成を計画しておりました大型工事案件が順調に完成したこと、サーマル部門においては、半導体関連業界の旺盛な設備投資意欲に支えられたこと、また、PWBA部門においては、一部製品の特需に支えられたことにより、前回発表予想を上回る結果となりました。

利益面につきましても、付加価値の高いSSP部門、サーマル部門の売上高の増加に伴い売上総利益が大幅に増加したことに加え、2020年4月に政府より発令された緊急事態宣言に基づく外出自粛要請に伴う営業活動の自粛及び投資の抑制等により、販売費及び一般管理費が減少したこと等を主な理由に、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益が増加、前回発表予想を上回る結果となりました。

なお、通期業績予想につきましては、第2四半期累計期間に計上した大型工事物件の一部が第3四半期以降の完成予定であったこと、また今後の新型コロナウイルス感染症の業績に与える影響については、今後の客先の生産の状況、設備投資の状況等により影響を受ける可能性があります。現時点においては合理的に見積もることが困難であること等により、2020年2月10日に公表いたしました通期業績予想に変更はありません。

以 上